

令和7年度 県政アンケート調査結果の概要について

令和7年12月

みらい企画創造部企画調整課

【調査目的】 県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の施策の企画立案及び執行上の基礎資料とする。

【調査項目】	(1)「山形での生活」について	(問1~7)
	(2)「第4次山形県総合発展計画」について	(問8~11)
	(3)「防災」について	(問12~18)
	(4)「循環型社会の形成に向けた取組み」について	(問19~23)
	(5)「やまがた緑環境税」について	(問24~26)
	(6)「安心して子どもを生み育てられる環境」について	(問27~30)
	(7)「住まい」について	(問31~36)

【調査対象】 県内在住の満18歳以上の者

【標本数】 2,500

【調査方法】 郵送によるアンケート調査（回答は郵送又はインターネットから選択）

【調査期間】 令和7年8月中旬～9月上旬

【回収結果】 回収数1,428件（回収率57.1%）

【調査結果】 （主な調査項目）

※1つの設問において2つ以上の回答を求めたものは、百分比の合計が100%を超える。

○「山形での生活」について

山形県が他県に誇れる良さは「自然環境の良さ」が76.4%

▶ 山形県が他県に誇れる良さについて、回答割合が高い項目

- 第1位「自然環境の良さ」(76.4%)
- 第2位「優れた食文化」(48.0%)
- 第3位「治安や風紀の良さ」(45.4%)

▶ あなた自身もその良さを享受（実感）しているものについて、回答割合が高い項目

- 第1位「自然環境の良さ」(65.6%)
- 第2位「優れた食文化」(41.3%)
- 第3位「治安や風紀の良さ」(37.0%)

山形県に住み続けたいと思う（「住み続けたいと思う」、「やや住み続けたいと思う」）は78.5%

▶ 住み続けたいと思う理由について、回答割合が高い項目

- 第1位「現状の暮らしや生活に不満がない（県外への転居希望がない）」（55.8%）
- 第2位「優れた食文化、豊かな農林水産物に恵まれている」（43.3%）
- 第3位「住環境（家の広さ・家賃等）に恵まれている」（36.3%）

▶ 住み続けたいと思わない理由について、回答割合が高い項目

- 第1位「公共交通機関をはじめとする交通の利便性が低い」（67.4%）
- 第2位「賃金や福利厚生、待遇が充実した職場や就職先が少ない」（57.3%）
- 第3位「大きな商業施設や娯楽施設が少ない」（45.8%）

現在幸福を感じている（「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」）は73.7%

▶ 幸福（充足している）かどうか判断する際に重視したものについて、回答割合が高い項目

- 第1位「健康状況」（61.5%）
- 第2位「家族関係」（61.3%）
- 第3位「居住環境」（41.0%）

○「第4次山形県総合発展計画」について

県の公的サービスのデジタル化による利便性が向上している（「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」）は28.9%

日本人も外国人も、共に活躍できる社会が重要である（「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」）は61.9%

過去1年間に月に1日以上、何らかの学習を行っているは24.7%

▶ 学習内容について、回答割合が高い項目

- 第1位「趣味に関すること」（49.2%）
- 第2位「仕事の知識等に関すること」（45.7%）
- 第3位「健康やスポーツに関すること」（25.2%）

○「防災」について

近年における自然災害の発生状況を踏まえ、自身の防災に対する関心が高まった（「非常に高まった」、「ある程度高まった」）は73.3%

過去1年間に家庭での防災対策を行っているは49.0%

地域の防災活動に参加している（「積極的に参加している」、「ある程度参加している」）は30.3%

▶ 地域の防災活動に参加するにあたり、障害となっていることについて、回答割合が高い項目

- 第1位「時間がない・忙しい」（33.8%）
- 第2位「気軽に参加できる防災活動の取組みが少ない」（27.4%）
- 第3位「防災に関心はあるがまず何をすべきか分からない」（22.5%）

災害ボランティア活動に、過去に「参加したことがある」は10.4%、今後「参加したい」は17.5%

▶ 災害ボランティア活動に参加するにあたり、障害となっていることについて、回答割合が高い項目

第1位「災害ボランティア活動に参加する時間がない」(33.5%)

第2位「被災地での活動に不安を感じる」(31.6%)

第3位「災害ボランティア活動に参加するのに必要な情報がない」(18.5%)

○ 「循環型社会の形成に向けた取組み」について

「山形県産業廃棄物税」について「産業廃棄物税制度があることを知っている」は41.2%

プラスチックごみの削減に向けて行っていることについて、回答割合が高い項目

第1位「ルールに従って、ごみを正しく分別する」(88.6%)

第2位「詰め替え容器に入った製品、簡易包装の製品、リサイクル製品など環境に配慮した製品を選ぶ」(42.6%)

第3位「マイボトルを持参し、ペットボトルなどの使い捨て飲料容器ができるだけ使用しない」(39.6%)

プラスチックごみの削減に向けて重要だと思う取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「分別方法・廃棄方法の周知徹底」(62.6%)

第2位「プラスチックごみ問題の啓発活動、情報発信」(38.3%)

第3位「学校などの環境教育の実施」(34.9%)

食品ロスの削減に向けて家庭で行っていることについて、回答割合が高い項目

第1位「残さず食べる」(73.4%)

第2位「冷蔵庫を整理し、残っている食材から優先的に使う」(66.9%)

第3位「小分け商品、少量パック、バラ売りなど、必要な分を購入する」(44.4%)

食品ロスの削減に向けて重要だと思う取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「飲食店での食べきり・持ち帰りの促進(提供量の調整・持ち帰り容器の準備など)」(61.6%)

第2位「食品廃棄物(食品ロスに加え、魚や肉の骨など廃棄される不可食部を含む)の再生利用の促進」(37.4%)

第3位「消費者への啓発(「てまえどり」の促進など)」(35.8%)

○ 「やまがた緑環境税」について

「やまがた緑環境税」について「負担していることやその趣旨を知っている」は24.3%

県民みんなで支える森づくりのために参加・協力したいことについて、回答割合が高い項目

第1位「県産材を使った木製品や、ペレットストーブを使うなど、県産木材資源の活用に協力したい」(23.1%)

第2位「植樹祭などのイベントに参加したり、身近な県民の森などで自然に触れることにより森林に親しみ、その働きを学びたい」(19.3%)

第3位「森林や自然環境の大切さを伝える、自然環境教育などのボランティア活動に協力したい」(9.0%)

やまがた緑環境税を活用した森づくりで重要なと思う取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄をした森林所有者に代わって森林組合などが管理を行う仕組みづくり」(48.6%)

第2位「荒廃のおそれのある里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み」(42.0%)

第3位「森林内に放置されている未利用木材を熱エネルギー源などに有効利用し、資源の循環利用を進める取組み」(33.9%)

○「安心して子どもを生み育てられる環境」について

理想とする子どもの数は「2人」が44.4%で最も割合が高く、次いで「3人」が43.5%

	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上
理想とする子どもの数	2.5%	1.8%	<u>44.4%</u>	43.5%	1.6%	1.0%
現在の子どもの数	22.0%	10.6%	<u>40.9%</u>	16.6%	1.8%	0.2%
今後予定している子どもの数	<u>63.3%</u>	2.9%	8.3%	2.7%	0.5%	0.1%

▶ 持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由について、回答割合が高い項目

第1位「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(40.6%)

第2位「高年齢で産むのはいやだから」(13.2%)

第3位「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」(11.4%)

「山形県の子育て環境」について社会的、経済的に満足度が高い（「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」）のは25.9%

○「住まい」について

住宅は「平成12年5月以前に建設された新築戸建て住宅（持ち家）」が47.3%で最も割合が高く、次いで「平成12年6月以後に建設された新築戸建て住宅（持ち家）」が24.6%

▶ 持ち家の将来に関する考え方について、回答割合が高い項目

第1位「住み続けた後、いずれ子ども（親族等）に引き継ぎたい」(50.2%)

第2位「考える必要性は感じるが、現時点では特に考えていない」(28.6%)

第3位「住み続けた後、いずれ親族以外に売却したい」(10.1%)

▶ 住宅の立地への希望について、回答割合が高い項目

第1位「災害（浸水・土砂災害）が少ない場所であること」(73.3%)

第2位「病院への通院や買い物が便利であること」(64.8%)

第3位「近隣住民に気を遣う必要がないこと」(29.4%)

▶ 住宅取得時の優先事項について、回答割合が高い項目

第1位「断熱・気密性能が高く冷暖房等エネルギー消費が少ないと」(49.1%)

第2位「耐震性能が高く安心して暮らすこと」(40.6%)

第3位「住宅の設備（水廻り・浴室など）が新しく快適に暮らすこと」(38.5%)